

えており、平成22年度末の水道管の総延長約46.1キロメートルに対し、耐用年数を経過した老朽管の延長は約17キロメートルとなつてている。

教育行政について

議員 市内小・中学校の児童・生徒数が減少する中、現在の学区を維持・運営するのも厳しい状態になるのではないか。長期的な展望に立つて、市内全地区を対象に、学区の適正規模化について取り組む必要があると感じるが、小中一貫教育を含めた考え方をたずねる。

教育長 将来を見通したとき、小中一貫教育の可能性も考慮すべき案件だとは思っている。現時点では、市内全地区を対象とした適正規模化については検討していない。しかし、児童・生徒数は確実に減少していくので、適正規模化というこについて検討に着手の要ありと考えている。

秀三明子
仁科尾順俊
栗山本聰
森岡馬越裕正

徳清会

質問者
所属議員

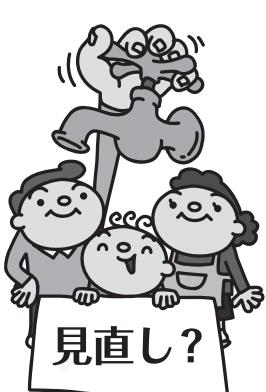
取り組みとして、わかりやすい財政の小冊子を作成し、全戸に配布する予定としている。行政広報番組においても、財政の番組を放映し、わかりやすい財政の公表について、新たな取り組みをついていくことにしていく。

水道料金について

本市の財政の現状と見通し並びにこれから

議員 本市の水道料金は、岡山県内でも際立つて高い。

今後、寿命を迎える送水管の布設替え、耐震化、補修に経費がかかるが、公共の福祉増進のためにも、定住促進施策の効果を上げるためにも、市民の立場に立つて、水道料金の見直し、やりやすく、関心を持てる工夫ができるいか。



市長 平成23年度版の財政運営適正化計画から、目標値を設定している数値を全国及び県内都市の平均値と比較できるよう、新しいグラフを取り入れる予定である

る。また、今年度の新たな取り組みとして、わかりやすい財政の小冊子を作成し、全戸に配布する予定としている。行政広報番組においても、財政の番組を放映し、わかりやすい財政の公表について、新たな取り組みをついていくことにしていく。

また、今年度の新たな取り組みとして、わかりや

ねる。

市長 水道事業にとつて厳しい経営が予測される中で、さらなる経営健全化を行い、今後、累積欠損金が解消された段階で、水道料金について改めて検討していきた

いと考えている。

値下げを進めるべきではないかと考える。見解をたずねる。

市長 公民館は、活動の場として積極的に活動している。また、ただくなど柔軟に対応している。また、分権時代にあつた組織・機構とは、協働の考え方によ

る施策の推進にふさわしい組織・機構であり、横の連携の強化が図られる必要がある。来年度以降、組織・機構の見直しを行う中で考

えていきたいと思っている。

まちづくり協議会のあり方について

本市の教育について

議員 公民館は、まちづくりを進める生涯学習の場と

はいえ、地域住民にとっては、まちづくりを進める上で分離できない、協働で地域づくりを推進する存在である。拠点施設や推進母体を検討する際に、行政の縦割りの弊害を感じることも多い。「笠岡市地縁組織との協働システム構築計画」では「市役所の内部の組織・機構についてもこれら

の状況を地域に発信し、協力体制を確立し、地域と

協働して子どもたちを育てていくことが、地域の中でも学校が果たす役割についてどのように変えていくのか。

市役所の内部の組織・機構についてもこれら

の状況を地域に発信し、協力体制を確立し、地域と

協働して子どもたちを育てていくことが、地域の中でも学校が果たす役割であると